

富山大学 教養教育院

令和5年度 第1回

FD研修会報告

Faculty Development Report

FD



Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

目 次

1. 開催趣旨と総括	1
2. 開催要項	2
3. 参考資料	3
4. 参加状況・参加者アンケート	7

開催趣旨と総括

コロナ禍以降、大学教育現場には大きな変化がありました。オンライン授業の普及、デジタル教育ツールの普及などです。このような劇的な教育手法の変化の中で若い学生はいわゆるデジタルネイティブ世代化してきた一方で、多くの大学教員が必ずしも対応し切れていないのが現状です。大学教育環境の新しい常識に柔軟に即応して、教育デジタルツールを効率よく活用し、新世代学生とともに新しい大学教育を醸成していく事は喫緊の課題です。

このような教育現場で即実践に応用しうるツールとして、まず Moodle (University of Toyama Moodle: Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment)があげられます。現在、富山大学教養教育院にあっても教員の殆どは、使用状況に差こそあれ、Moodle を使用しています。しかし、Moodle は様々な機能を含むアプリケーションであり、使いこなすのはなかなか大変です。私自身も Moodle 使用で単純な作業でも途方に暮れる事例にも時折遭遇しています。その一方で、このようなツールを楽々と使いこなし、効率よく学生に評判の良い講義を展開している教養教育院の教員方もおられます。

今回の FD は「教養教育の実践手法 F D:明日から講義に使える Moodle 事例」と題して、Moodle を自在に使いこなしている教養教育院の杉森 保 先生、大橋 隼人 先生に講師となっていただきました。また総合情報基盤センターより上木 佐季子 先生にも協力していただき、初歩的な実践事例から専門的内容にも対応出来る講師陣配置となりました。参加者の皆さんには、より実践的な FD となるように、臨機応変に個別対応が可能な 50-60 人程度の参加者を想定した実践 FD をお願いしました。

今回の FD は一般的なパワーポイントによる講義形式ではなく、具体的な Moodle 活用事例を紹介していただきながら、同時に参加者より質問が出れば、その場で対応するというものでした。内容は教養教育科目でよく使われると想定される「小テスト」「フィードバック」「課題」の使用例を説明していただき、参加者の利便性を考慮して事例のサンプルを Moodle コースに残して FD 終了後も応用可能にさせていただきました。また、容量の大きな動画のコンテンツについて「動画配信システム Kaltura」について説明していただきました。さらに今後の大規模クラスでのグループワークに活用が期待できる「レッスン」と「相互評価」についても使用例を含めて解説していただきました。

講師陣の方々には初心者には「わかりやすい」・「実際に使える」事を最大の目標として、説明し、例をあげ、試してもらうスタイルの FD としていただきました。果たして、大変評判のよい FD となりました。参加総数は 58 名、教養教育院以外からの参加は 36 名でした。全参加者の 5 段階評価では、5 評価が 59%、4 評価も 30%でした。なんと参加者の 9 割が良かった・参考になったという好評価となりました。一つだけネガティブコメントは特定科目では、今回のような Moodle 教育は適さないというものでした。今後も好評価だけにとらわれず、更なる改善を目指しますので、是非今後もコメントに自由なご意見をお願いします。そして、今後も教育ツールの実践使用 FD を改善しつつ継続していく事が重要と思われれます。

令和 5 年度教養教育院教育改善推進委員会委員長
片桐 達雄

令和5年度第1回教養教育院FD 実施計画

テーマ「教養教育の実践手法FD:明日から講義に使える Moodle 事例」

1. 開催趣旨

教育ツールは常に日進月歩しているが、コロナ禍という人類未曾有の不幸を糧にオンラインツールは一層の発展を遂げた。私たちは大学教育者として進化しつつあるオンラインツールを活用しつつ日々の教育手法の改善に努めている。しかし、個人のスキル習得には限界がある。今回のFDは、主に大学教育のツールとしてほとんどの教員が使ってはいるが使いこなせているかは疑問符がのこる Moodle について、日頃の活用事例報告や活用に関する日頃の疑問解決、さらなる活用の展望について実践的なFDを行おうとするものである。

2. 開催日時

令和5年11月15日（水）13:30~14:50

3. 開催会場

共通教育棟A棟4階 学務部会議室

(Microsoft Teams 会議によるオンライン配信も行います。)

4. 対象

本学教職員、非常勤講師 ※ 事前申し込み制

5. 次第

(1) 開会挨拶・趣旨説明

片桐 達雄 (教養教育院教育改善推進委員会委員長)

(2) 講演「Moodle 活用事例の紹介」

杉森 保 (教養教育院)

大橋 隼人 (教養教育院)

上木 佐季子 (総合情報基盤センター)

(3) 質疑応答

(4) 閉会挨拶

武山 良三 (教養教育院長)

令和5年度第1回教養教育院FD
「教養教育の実践手法FD:明日から講義に使える Moodle 事例」 参考資料

▽今回の FD で用いられた応用可能な事例を以下のようにムードルコースにおいてあります。(※令和7年度末まで使用できます)

☆「2023_情報共有_教養教育院FD」コース

<https://moodle52.u-toyama.ac.jp/course/view.php?id=4417>

登録キー：#202311Fd



実際のムードルコースに掲載されている状態を以下のスクリーンショットに示します。

☆スクリーンショット1「FDコースの第1階層-選択画面-」



☆スクリーンショット2 <各項目詳細>

① 「小テスト」の説明と応用例



② 「フィードバック」の説明と応用例

▼ フィードバック

このセクションには「フィードバック」機能の紹介として「設定」の工夫について例示しています。「設定」画面の「回答送信後」の設定を紹介し、受講生として体験してみてください。

なお、回答によって次の質問が変わる設定も埋め込んであります。詳細があれば紹介します。

 フィードバック例1 フィードバックを送信する

開始済み: 2023年11月15日(水曜日) 13:30

回答送信後に集計結果が閲覧できない設定

🔒 2023年11月15日 13:40 より利用可能

 フィードバック例2

他のモジュールの「完了」で利用できるようになる、回答後に集計結果を閲覧できる設定、回答による分岐設定あり。

🔒 次の条件に合致しない限り利用できません: 活動「フィードバック例1」が完了マークされた場合

③ 「課題」の説明と応用例

▼ 課題

このセクションには「課題」機能の紹介として「設定」の工夫によって提出のさせ方や評価方法を案える例を示しています。FDでは設定のポイントを紹介しします。

 課題の使用例1

期限: 2023年11月16日(木曜日) 00:00

オンラインテキストで提出し、スプレッドシートで課題を集める。


 課題の使用例2

期限: 2023年11月16日(木曜日) 00:00

提出ファイルの形式を拡張子で制限、ルーブリックで評価する例

④ 「動画配信システム Kaltura」の利用案内

▼ 動画配信システム Kaltura

 動画配信システム Kaltura 利用ガイド (教職員向け) 閲覧する

動画配信システム Kaltura (カルトゥーラ) の利用方法がリンク先ページで確認できます。

⑤ 「レッスン」の説明と応用例

▼ レッスン

レッスンは通常、複数のページで構成され、各ページには教材と教材の理解度をテストするための問題が置かれます。

学生が学習内容を正しく理解した場合は次の項目に進ませ、間違っていた場合はそのページに留まって復習させるかあるいは別な補習用のページに進ませるなどを指定できます。ただ単に、次のページに進むための「続ける」ボタンを置くこともできます。

本FDでは前述のビデオ配信システム*Kaltura*のビデオと、レッスンの所要時間を組み合わせた事例を紹介します。

🔍 レッスン例 (動画視聴時間を所要時間に設定) 閲覧する

この活動に少なくとも6分を費やす
活動を最後まで続ける

例:「情報処理」情報倫理ビデオ (物語 1:21 解説 5:30)
FD内で指示があるまで本コンテンツをクリックしないでください。

📄 レッスン完了後に閲覧可能となるページ 閲覧する

次の条件に合致しない限り利用できません。活動「レッスン例 (動画視聴時間を所要時間に設定)」が完了マークされた場合

⑥ 「相互評価」の説明と参考ループリック

▼ 相互評価

教養教育科目「情報処理」では、発表時間5分のプレゼンテーションを学生同士で相互評価をしてもらっています。

ここではこの事例の概略について説明した後、相互評価機能について説明する中で、本FD参加者には相互評価でどのようなことができるかを体験していただきます。

(教員事前準備)

- 事前に複数の評価項目についての評価用ループリックを準備して周知しておくことで、相互評価基準を統一化を図ります (当日も確認しながら行う)。
- コース参加者全員が評価対象者として表示されますが、グループを割り振りグルーピングすることで、同一グループの学生のみが表示されるようにも設定できます。

(当日プレゼンテーション) 本FDでは省略

(当日プレゼンテーション後の相互評価)

- 下記「相互評価例 (プレゼンテーション相互評価)」をクリックして相互評価ページに移動し、評価対象リスト全員について、アクション(鉛筆)ボタンを押して各評価項目を入力します。評価方法は「段階評価」と「コメント」の2種類があります。本FDでは適当に段階を選択、コメントを入力をしてください。自分についての自己評価を入力することもできます。

(相互評価後)

- 相互評価ページの「自分に対する評価を見る」ボタンを押すと、段階評価についてはその平均値や標準偏差、評価分布が表示され、コメントについてはリスト表示されます。
- 各評価項目について自分がどのように評価されているのかを確認することができ、コメント内容についても参考にすることで、自分のプレゼンテーションを改善するための材料としてもらいます。
- 教員は「エクスポート (xlsx)」ボタンで相互評価データをまとめてExcelファイルに保存することができます。1シート目に各評価対象への段階評価の各項目平均値やコメントが全員分リスト化され、2シート目には誰が誰をどのように評価したかが分かるようにリスト化されています。

🔍 相互評価例 (プレゼンテーション相互評価) 閲覧する

📄 (参考) 相互評価ループリック 閲覧する

▽オンデマンド動画

「2023_教養教育院 FD_オンデマンド配信動画_教養教育院」

<https://moodle52.u-toyama.ac.jp/course/view.php?id=4440>

※令和7年度末まで公開



令和5年度第1回教養教育院FD
「教養教育の実践手法FD:明日から講義に使えるMoodle事例」参加状況

【当日参加者内訳】

教員	
役員	1
人文科学系	2
社会科学系	4
教養教育学系	19
理学系	2
医学系	3
薬学・和漢系	1
教育研究推進系	5
附属病院	1
小計	38

職員	0
----	---

非常勤講師	0
-------	---

合計	38
----	----

【オンデマンド参加者内訳】

教員	
人文科学系	1
教育学系	3
社会科学系	2
芸術文化学系	1
教養教育学系	1
理学系	1
都市デザイン学系	3
医学系	4
薬学・和漢系	2
教育研究推進系	1
小計	19

職員	1
----	---

非常勤講師	0
-------	---

19	合計	20
----	----	----

総計	58
----	----

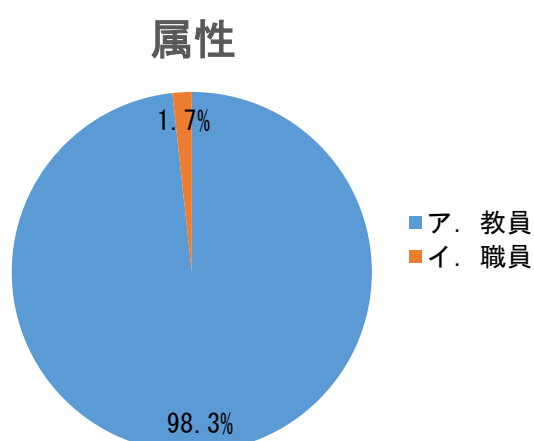
令和5年度第1回教養教育院FD参加者アンケート集計結果

FD参加者数：58名

(内訳：教員57名、職員1名)

アンケート回答者数：46

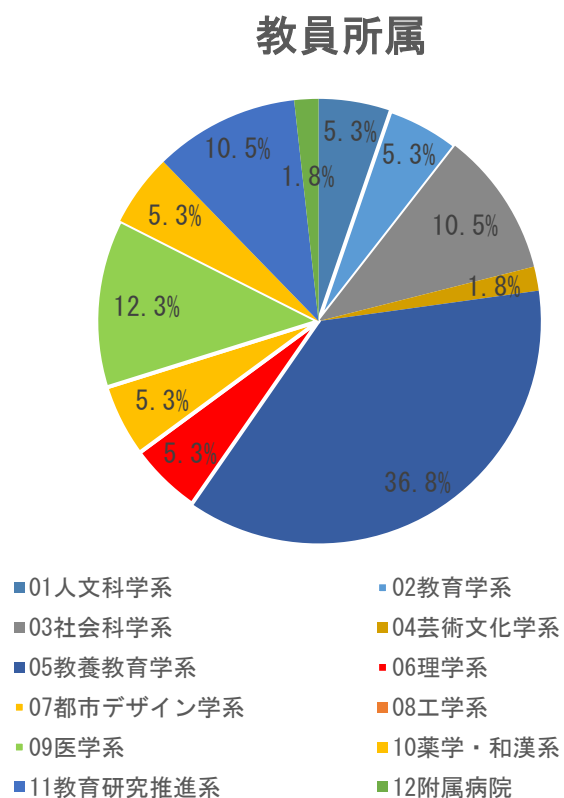
1. 属性を選んでください



属性

ア. 教員	57
イ. 職員	1
計	58

2. 所属を選んでください (教員のみ)

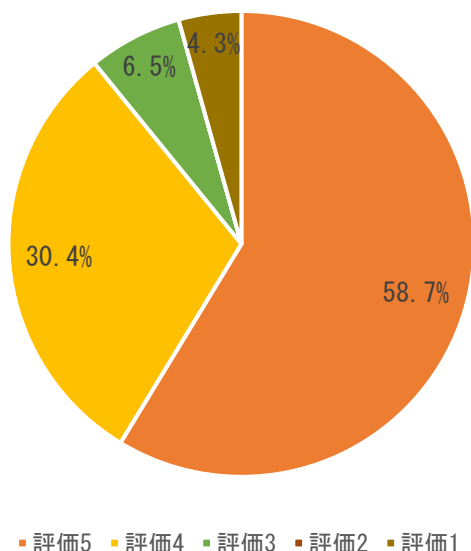


教員所属

01 人文科学系	3
02 教育学系	3
03 社会科学系	6
04 芸術文化学系	1
05 教養教育学系	21
06 理学系	3
07 都市デザイン学系	3
08 工学系	0
09 医学系	7
10 薬学・和漢系	3
11 教育研究推進系	6
12 附属病院	1
計	57

3. 今回の教養教育院FDに参加しての評価を5段階評価で入力ください。

今回のFDに参加しての評価



今回のFDに参加しての評価

評価5	27
評価4	14
評価3	3
評価2	0
評価1	2
計	46

4. 今回の教養教育院FDについての感想やご意見があれば、ご記入ください。

- 良いテーマでした。
- 新任でMoodleに触れるのが初めてのため、非常に参考になりました。いろいろと試行錯誤してみたいと思います。ありがとうございました。
- 実際にワークができて、よく分かりました。
- 今回作成した Moodle コースは今年度だけでなく、長期に維持+追加・修正していただければ幸いです。
- これまで十分に理解していなかった Moodle の設定の幅が広がった。
- Moodle の活用方法を具体的に知ることができて、大変参考になりました。ありがとうございました。
- 丁寧にご準備いただきありがとうございました。ムードルを用いた講義内容を考えていくきっかけとなりました。
- 色々なやり方があることが分かり参考になった。問題は、Moodle の設定項目が多すぎて訳が分からない (Moodle 日本語化の翻訳精度も良くない) ところです。結局、一度、何かで試す必要がありますが、実運用しているコースで試すのはリスクがあります。色々な機能を試すためのスクラップ&ビルドが出来る環境があると良いと感じました。
- 大変勉強になりました。有難うございます。どのような機能なんだろうと疑問に思っていた操作が実践をしていただくことによって、おおよそ理解できたかと思います。使用する際には再度よく調べたり、時間をかけてためす必要がありますが、まず知る

ことができるととても役立ちました。有難うございました。

- Moodleにこれだけ多彩な機能があるということ自体知らなかったのですが、使いこなせば相当便利だと感じました。ロシア語の授業で、ミニテストなどの工夫をしてみようかと思えます。
- ムードルにいろいろな機能があることを、教えていただいたことに感謝しております。授業で、できることを工夫してみたいです。
- すぐに役立つ情報で大変参考になりました。特に相互評価についてはどのような使い方がいいのか知りたいと思っていたところなので有り難かったです。Moodleコースもありがとうございます。利用させていただきます。
- 大変手の込んだFDでとても参考になりました。準備等大変だったかと思いますが、本当に参考になるFDで、参加できて良かったです。今後も、参加したいと思っています。今日はありがとうございました。しばらく、今日のFDで使用したMoodleのコースを残していただけますでしょうか。是非今後の参考にしたいと思っています。
- とても有意義な内容でした。
- 授業中に、パソコン、タブレット、スマホ等の端末を教室に持ち込むと、授業以外のことに使用する問題が生じる可能性があります。そのような問題をどのように解決するか考える必要があるように思います。
- 体験型のFDだったので理解が深まりました。講師の方々のご説明も大変わかりやすく、また、こちらの質問にも非常に丁寧に対応くださり、有難かったです。参加して本当に良かったと思えました。ありがとうございました。
- 事前に作成して下さっていたムードルコースもとても分かりやすく、内容についてもまさに知りたかったことが知れたFDでした。小テストやフィードバックは使っていましたが、その中でもまだ便利な機能があることが分かり、とても勉強になりました。カルトゥーラや相互評価ははじめて聞き、課題や授業で是非使ってみようと思います。本日はとてもためになるお話をありがとうございました。
- 数学には適さない。
- 動画だけではなく、お使いになった資料もオンデマンドで配布いただけると、実際にテストを作成してみる時などの参考になりそうです。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- とてもよかったです！少し進んだ使い方もさることながら、「小ネタですけど…」と言ってシェアして下さった内容が本当に役に立っていて、ムードルを使う上でのプレストレスが軽減しました。本当にありがとうございました。
- 小テストをランダムに出題する方法など、試してみたいことがいくつも紹介されており、勉強になった。
- 今まで使い方がわからないところが多かったが、今回のFDを受けて少しは自分で使っていく自信ができました。講師の先生方に感謝申し上げます。
- Moodleの機能の詳細を理解できたのはとても良かったです。オンラインマニュアルは都度読んでいましたが、体系的に教えていただくとよくわかりました。

- 色々と参考になった気がする。
- 活動のグルーピングの選択の意味が初めて分かりました。具体的な操作方法もあり、大変参考になりました。
- わかりやすい解説ありがとうございました。より使ってみたくになりました。
- 実際に自分で体験できる具体例が多く、授業等での活用の幅が広がると思います。最後の質疑応答ででてきたワークショップについて、さらに情報があるとうれしいです。

5. 今後、教養教育院FDで取り上げて欲しいとお考えのテーマがあれば、ご記入ください。

- 教員が授業を行うのに役に立つ方法論をどんどん紹介していただければ、と思います。
- 今回取り上げてくださった機能以外の Moodle の具体的な活用方法を教えていただけるとありがたいです。
- 全体のFDもそうですが、Moodle でこうしたいのだけどどうすれば？的な問い合わせ窓口があるとうれしいなと思います。（現実的には難しいかと思いますが）
- 今回のテーマでの繰り返しや事例による紹介など、勉強になるかと思いました。知りたいことがたくさんありますので。
- 小テストのことをもっと詳しく聞きたいと思っています。FDでなくても、参考になる情報ウェブサイトやYoutubeなどの動画を何らかの形で共有していただけるとありがたいと思っています。
- 柔軟な数式の入力方法
- 実演・体験型の「アイスブレイク集」

6. 参加者アンケートの分析

No.	カテゴリー別	備考
1	満足	
2	満足	
3	満足	
4	満足	
5	理解促進	[体験できて] 理解深まる：実際のワーク
6	理解促進	[体験できて] 理解深まる：体験型FD
7	理解促進	[具体的な操作が見れて] 理解が深まる：操作を <u>実践</u>
8	理解促進	[具体的な操作が見れて] 理解が深まる： <u>具体的な操作方法</u>
9	理解促進	
10	理解促進	
11	理解促進	
12	理解促進	
13	理解促進	
14	理解促進	
15	理解促進	FDで使用したのMoodleコースが非常に良かった
16	理解促進・活用意欲	FDで使用したのMoodleコースが非常に良かった
17	理解促進・活用意欲	
18	理解促進・活用意欲	
19	理解促進・活用意欲	
20	理解促進・活用意欲	
21	活用意欲	
22	理解促進・要望（期待）	
23	理解促進・要望（期待）	FDで使用したのMoodleコースが非常に良かった
24	理解促進・要望（期待）・活用意欲	[体験できて] 理解深まる：実際に自分で体験できる <u>具体例</u>
25	要望（期待）	FDで使用したのMoodleコースが非常に良かった
26	要望（期待）	
27	課題・提言	

FDの感想や意見についての自由記述アンケートからは、「大変勉強になった」、「有意義な内容・テーマであった」等という肯定的な意見が数多く寄せられており、本FDが非常に有益なものであったことがうかがえる。特に、Moodleの使用方法について「理解が深まった」との反応が多く、講師による具体的な操作のデモンストレーション、及び参加者が実際にワークを通じて操作を体験できる、体験型のアプローチが効果的であったと考えられる。加えて、講師が事前に用意した「Moodleコース」は「分かりやすかった」と評価され、参加者からはこれを継続して利用したいという要望も寄せられた。さらに、参加者からは今後Moodleを積極的に「使ってみたくなった」、「いろいろと試行錯誤してみたい」、「ミニテストなどの工夫をしたい」等の意見が多くあり、Moodleへの活用意欲が高まったことがうかがえる。さらに「カルトウールや相互評価」といった、従来はあまり知られていなかった機能に関しても「授業や課題で是非使ってみたい」という意見があり、本FDがMoodleの多様な機能を紹介し、その魅力を伝えることに成功したと言えよう。

また、参加者からは「FDで使用したMoodleコースの継続利用」や「FDの資料をオンデマンドで配信してほしい」といった具体的な要望も寄せられており、今後できる限り対応について考えていきたいと思う。最後に、授業中の学生のデバイス使用に対する懸念や、Moodleが特定の科目には適していない可能性があることを指摘する声もあり、Moodleの適用範囲と効果的な使用方法についての継続的な議論が必要なことがうかがえる。

今後も同様の取り組みを年々改善して継続していくことが重要である。

令和5年度教養教育院教育改善推進委員会委員

福田 翔

富山大学教養教育院 F D活動報告
令和5年度第1回 F D研修会

教養教育院教育改善推進委員会

委員長：片桐 達雄

彦坂 泰正

谷口 美樹

福田 翔

大橋 隼人

宮島 光志